

災害に備える

9月1日は
防災の日

「災害は、自分の生きている間にはおこらない。」とつい思っていますか。

高島市では、昭和28年の台風13号による水害以来、大きな災害がありません。しかし、今年7月15日の集中豪雨で、マキノ町では、海津大崎で床上浸水が2件発生し、大雨による土砂の流出で県道西浅井マキノ線は8月6日まで通行止めとなりました。この日、午後8時30分から9時30分までの1時間に、知内川大橋近くの下開田観測所では41mmの雨を観測しました。50mm程度の時間雨量はどこでも起こる可能性があります。災害はいつ、どこで起こっても不思議ではありません。9月1日は「防災の日」です。防災について改めて考えてみましょう。



▼海津大崎の床上浸水（7月16日撮影）



防災で大切なのは 災害時のイメージ

現在、日本は地震の活動期に入っています。今後50年の間にマグニチュード7から8の巨大地震が50回程度起こると考えられています。今年8月8日9時46分にも京都南部でマグニチュード2.9の小さな地震が発生し、朽木柏、今津町日置前

で震度1を観測しました。なんと全国でこの日に5回の地震が起こっています。

地震や豪雨は多くの被害を及ぼします。このような状況下、どうすれば大切な家族の命や財産を守ることができるのでしょうか。国や県、市に任しておけばよいというものではありません。災害に備え一人ひとりが考えていかなければなりません。

防災対策にとって重要なものの一つは、災害に対するイメージがわくかどうかです。イメージがなければ適切な防災対策はできません。災害が発生したときに自分の周りで起こりうる出来事を想像してみましょう。市でも、災害対策本部向けの図上シミュレーション訓練をはじめ出前講座にクロスロード（災害対応ゲーム）やハグ（避難所

運営ゲーム）等のワークショップを取り入れるなど、災害時のイメージトレーニングを行っています。

琵琶湖西岸断層帯 震度6強の予測

昨年8月、国の地震調査研究推進本部地震調査委員会は、琵琶湖西岸断層帯の長期評価の一部を改訂しました。それによると、琵琶湖西岸断層帯は、北部と南部の二つに分かれて活動すると考えられています。（ただし全体がひとつの区間として活動する可能性もあります。）

断層帯の北部では、M7.1程度の地震が発生すると思われる、今後30年以内の発生確率は1%から3%以内です。

また、南部ではM7.5程度の地震が発生すると考えられ、

防災意識を 高めるために

市では、今年度から防災意識を高めるため、従来の受動的な出前講座から、市民ボランティア組織と協働し、市民の皆さんに積極的に働きかける方式の講座に改めます。

また、市では各区・自治会に対し、地域の防災マップの作成をお願いしています。この作成を通じ、地域のきずながより深まり、共助の体制が前進すればと考えています。未作成のところは早急に作成をお願いします。

また、次世代を担う子どもたちを対象に毎年、ライフラインが寸断されたとき、「いかに生活するか」「災害時、知恵と工夫で生き残るための精神を養うこと」を目的に子どもサバイバル訓練を行っています。



▲図上シミュレーション訓練

自助 -じじょ-

家庭で日頃から災害に備えるなど、自分の身を自分で守ること

共助 -ききょうじょ-

地域の方々と消火活動を行うなど、周りの人たちと助け合うこと

公助 -こうじょ-

市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供などの公的な支援のこと

災害時は、自助・共助・公助が互いに連携し一体となることで、被害を最小限にできます。

子どもサバイバル訓練



8月8日（日）、マキノ土に学ぶ里研修センターで、子どもサバイバル訓練を行いました。

年々参加者が増え、今回は約80人もの家族が集まりました。

空き缶を使ってご飯を炊いたり、ビニール袋を使ってご飯やぜんざいをつくったりとサバイバル

クッキングを楽しんだあと、「簡易ランプ」「新聞紙スリッパ」を作ったほか、「起震車による地震体験」、「応急救護訓練」など災害発生時の疑似体験を通じて、サバイバル知識や技術を学びました。

盛りだくさんの内容に、参加した皆さんは、悪戦苦闘しながらも協力して課題に取り組んでおられました。

今回学んだことを災害時にも活かしていただきたいと思います。

